

いまお客様に提案したい 効果的な投資手法

相場不安定時に効果を発揮する 二つの投資手法について解説する。

- 1 菱田雅生 ライフアセットコンサルティング株式会社 CFP®
- 2 杉山 明 パームスコポーレーション株式会社 取締役社長

1 ドル・コスト平均法

価格が大きく変動するときに 効率の良い投資ができる点を説明

ドル・コスト平均法とは

株式の個別銘柄を毎月積立てで購入していく株式累積投資（いわゆる）や、投資信託を毎月積立てで購入していくファンド積立、毎月一定額ずつ金（ゴールド）を買っていく純金積立など、「ドル・コスト平均法」の効果を期待できる投資法が、近年かなり増えてきたといえる。確定拠出年金制度（DC）でも、利用する商品を選

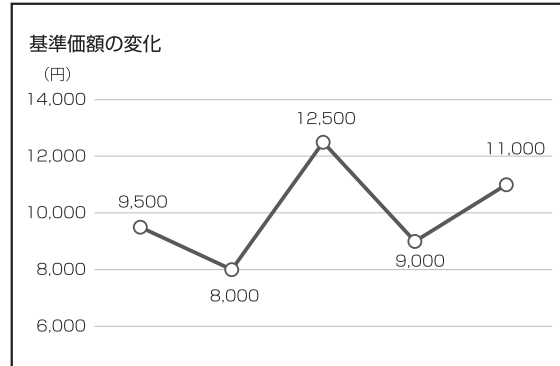
動きのある投資信託にすれば、自動的にドル・コスト平均法の効果が期待できる。そもそもドル・コスト平均法とは、値動きのある商品を毎月一定額ずつ買っていく手法である。毎月一定額ずつ買うことによって、

たときも買っているのに、現在の価格が約1万4000円以上であれば利益が出る状態になっているのである。

量ずつ日経平均株価を購入していたとすると、平均購入単価は1万5586円になる。ドル・コスト平均法のほうが、一定数量ずつ購入する場合に比べて、1割以上購入単価を低く抑えることができたことになる。

また、当初日経平均株価が4万円近い水準から買い続けていることを考えると、平均購入単価が3分の1程度まで下がってきているのは、大きな効果であるといえるだろう（図表2）。4万円近かつ

図表1 一定額投資と一定量投資の比較



	一定額投資		一定量投資	
	投資額 (円)	購入数 (口)	投資額 (円)	購入数 (口)
	10,000	1.05	9,500	1.00
	10,000	1.25	8,000	1.00
	10,000	0.80	12,500	1.00
	10,000	1.11	9,000	1.00
	10,000	0.91	11,000	1.00
合計	50,000	5.12	50,000	5.00
平均購入単価	9,760.22		10,000.00	

価格の高いときには少ない量を買って、価格の安いときには多くの量を買って買付けられるので、毎月一定数量ずつ購入する場合に比べて、平均購入単価を低く抑える効果が得られるのだ。

図表1は、当初一口11万円の投資信託を、折れ線グラフのよう な基準価額の推移だったときに、毎月1万円ずつ買った場合と、毎月一口ずつ買った場合で比較したものである。毎月1万円の定額ずつ買った場合の平均購入単価は、約9760円となるが、毎月一口の定額ずつ買った場合の平均購入単価は1万円である。

投資総額は両方とも同じ5万円であるにもかかわらず、一定額ずつ買ったほうが購入口数は多くになり、平均購入単価が低くなってい

し、大きく下がるタイミングが多い分だけ安く大量に買うことができるドル・コスト平均法は、値下がりしていくものを買いかう逆張りの発想からしても、効率の良い投資手法だといえるのかもしれない。

必ずしもすべての投資に役立つとは断定できないが、積立投資の大きなメリットの一つは、相場不安定時にも自動的に買っていく点にあるといえる。相場変動に一喜一憂せず、不安定なときほどチャンスをつかんでいるのかもしれないと考えるべきだろう。

一定数量購入と比べた 効果である点を必ず説明

お客様へ伝える際の注意点

前述のように、値動きのある商品を毎月一定額ずつ積立てで購入していくと、自動的にドル・コスト平均法の効果（平均購入単価を低く抑える効果）が得られる。しかし、お客様へ提案する際には注意すべき点もあるので、説明のボ

る。これがまさに、高いときには少なく、安いときには多く買うことで平均購入単価を低くするドル・コスト平均法の効果である。

相場変動に一喜一憂せず チャンスをつかめる

実際のドル・コスト平均法

実際のデータで計算してみても、その効果の大きさを実感できるケースがある。例えば、日経平均株価が4万円近かった1990年1月から2016年1月までの26年間、毎月末に一定額ずつ日経平均株価を購入してきたとすると、2016年1月末購入後の平均購入単価は1万3968円になっている。一方、同じ26年間、一定数

イントをしつかりと押さえておくことが重要だろう。

そもそも、ドル・コスト平均法によって平均購入単価が低くなるというのは、平均購入単価の絶対的な水準が低くなるという話ではない。あくまでも、毎月一定数量ずつ買う場合に比べて、毎月一定額ずつ買うほうが平均購入単価を低くできるというものである。したがって、ドル・コスト平均法の効果を説明する際には、必ず「一定数量ずつ買う場合と比べて」という言葉を付ける必要があるの注意すべきである。

それから、ドル・コスト平均法を利用することが、すべての投資機会において有効かというと、必ずしもそうとはいえないことを知っておくべきだろう。どんなケースが該当するのかわかると、投資対象の価格が上がり続けたり、下がりが続いたりする場合だ。

投資対象である商品の価格がずっと上がり続けるなら、毎月一定額ずつ買い続けるよりも、最初からまとまった金額で一度に投資したほうが利益は大きくなる。さら

